

第2回推進協議会を開催しました

秩父市では、セーフコミュニティの国際認証取得に向けた取り組みを進めています。3月28日（木）には、第2回秩父市セーフコミュニティ推進協議会を開催しケガや事故に関するデータの収集状況について報告しました。

○データの収集状況

秩父市におけるケガや事故に関するデータを収集し、その特徴を分析しています。データとしては、人口動態や犯罪などの統計情報のほか、救急搬送データなどがあります。詳しい内容は、今後、市報等で随時紹介していく予定です。今回は、救急搬送データの一部について紹介します。

救急搬送データからみる

秩父市の地域特性について

(社)日本セーフコミュニティ推進



日本セーフコミュニティ推進機構
代表理事 白石陽子氏

機構代表理事白石陽子氏から、秩父市のケガや事故の発生状況について、分析結果を報告していただきました。

秩父市における特徴として、

- ①交通事故は、国道での発生が全体の4分の1を占める。
- ②自宅では、「トイレ」に行こうとしてケガをしやすい。
- ③農作業時やハチ刺されによるケガが多い。

などの事例が紹介されました。このほか、高齢者の転倒が非常に多いことや飲酒を伴うケガが多いことなども報告されました。

セーフコミュニティ担当部署が変わりました

これまで、セーフコミュニティの担当窓口は市長室地域政策課でしたが、組織改正に伴い、4月1日からは総務部危機管理課が担当することとなりました。

今年度から、いよいよ具体的な取組みが始まりますが、安心・安全なまちづくりに直接携わる組織が担当することで、機動的かつ効果的に事業を進めていきたいと考えています。

セーフコミュニティ活動へのご理解とご協力をお願いします。

☎ 危機管理課セーフコミュニティ担当 ☎ 22 | 2206